

奏であう人

vol.69



ごとう まい 後藤 麻衣さん(天童市)

1985年生まれ。山形市出身、天童市在住。山寺の土産店「ふもとや」の4代目。山寺で生まれ育ち、広い世界への憧れから、高校卒業後すぐに海外留学を決意。オーストラリアのケアンズやイギリスのロンドンでの暮らしを経験したことで、それまで気づけなかった故郷の魅力を見出す。近年は山寺における外国人旅行者の受入環境を整備するため、外国語ガイド組織を立ち上げ、メンバーと共に活動を展開している。



Yamaderans(ヤマデアランズ)は外国人旅行者に山寺の歴史と魅力を伝えること、地元の方々との交流の輪を広げることを目的にスタートした山寺の外国語ガイド組織。現在は約10名のメンバーが、英語で山寺のガイドを行っている。

国際交流から山形の価値を再発見



出羽三山の山伏に魅せられ、その精神文化を世界に発信しているバンテイング・テイモシーさんと、生まれ故郷の山寺で外国語ガイド組織を運営する後藤麻衣さんに、山形を拠点にした国際交流についてお話を聞きました。



バンテイング・テイモシーさん(酒田市)

1988年生まれ。ニュージーランド出身、酒田市在住。幼い頃から、実家にホームステイに来た日本人学生と交流し、日本人を身近に感じる環境に育つ。大学卒業後はJETプログラムに応募し、2010年に外国語指導助手(ALT)として庄内町へ赴任。2015年からは、東北公益文科大学で英語を教えながら、山伏修行を体験する外国人旅行者のコーディネートや、SNSを使った出羽三山の魅力の紹介などに取り組んでいる。



2016年、友人の紹介で海外向けの山伏修行体験プログラムづくりに参加。父が他界した直後でもあり、死と再生=生まれかわりの修行に励む山伏たちとの出会いに運命を感じ、修行を始める。2017年には、出羽三山神社から公式に山伏として認定された。

身近にある素晴らしい 精神文化を世界に伝えたい

山寺を訪れる外国人旅行者を受け入れ、英語での案内や、地元の方々との交流をサポートする後藤さん。その活動の原点には、海外生活での気づきがあると言います。

「オーストラリアやイギリスの友人とお互いの地元について話したとき、山形のいいところを伝えられず、もどかしい思いをしました。故郷の素晴らしいさに私自身が気づけていなかったのです。地元に戻り、山寺の魅力を伝えていきたいと思うようになりました。」

一方、日本への憧れから英語教師として来日したテイモシー(愛称 ティム)さん。庄内町に赴任し、山伏の精神文化との衝撃的な出会いがありました。

「山伏修行に参加し、山を巡り、山に祈り、自分自身と向き合うことができました。万事のありのままを受け入れる、うけたもう“の精神を学び、自分の人生観や価値観が大きく変わりました。修行を終えたときには、ただただ感動の気持ちでいっぱいでした。この素晴らしい精神文化を世界に伝え

たいと強く感じました」。

以来、仲間たちとともに外国人向けの山伏修行の体験プログラムを作成するとともに、動画共有サイトやブログなどで、「山伏」や「やまがた百名山」などを取り上げ、外国人旅行者の目線に立った情報を紹介しています。

ティムさんの活動に対する思いを聞き、後藤さんが共感して応えます。

「私が「Yamaderans」を立ち上げたきっかけも、「山寺にはどんなストーリーがあるのか」を海外の方々に深く知ってもらい、心に残る体験をしてほしいとの思いからでした」。

国際交流から生まれる お互いの価値観の変化

後藤さんは、活動が続けていく中で、自身も良い影響を受けているそうです。

「海外の異なる価値観に触れ、自分の視野が広がりました。例えば、日本人は、自分の考えよりも周りとの調和を優先しがちですが、海外の方は、まず自分の考えを大事にしていると思います。ティムさんはいかがですか」。

「僕はもう、日本人と同じ考えになっ

ていると思いますが(笑)、自分の考えを持って、相手に伝えることも大事なことですよね」。

後藤さんが大きくうなずいて話します。

「以前、アルゼンチンから我が家にホームステイに来た子が、「お柴灯(さいとう)で古いお札を焚き、一年の無事を祈る日本人の心が素敵だね、と言ってくれました。当たり前と感じていた地元文化の価値を認めてもらい、私の山形の暮らしに対する幸福度も上がったように感じています」。

ティムさんが自身の経験を振り返り、応えます。

「外の人を知ること、自分をより深く知ることができると思います。異なる価値観や文化を知ることによって、お互いに、自分の価値観や文化を見直すことができるのです」。

「だからこそ、子どもたちにも、国際交流を経験してほしいと思います。山寺や出羽三山にも海外の方々との交流の場をつくれたらいいですね。」と楽しそうに語り合うお二人。

山形を拠点に世界と交流する、山形の未来が見えてきました。

